

「つや姫」栽培管理情報 第2号



～1.9mm選別ふるい目に対応した米づくりの実践～

平成30年6月8日



有効分げつの確保が間近

過繁茂を防ぎ、充実した茎を確保しましょう

「つや姫」マイスターの各ほ場では、4月下旬から5月下旬にかけて田植えが行われ、最も早いほ場では、田植え後40日を経過しました。このほ場では、初期生育の早かった昨年よりもやや遅れるものの、分げつが徐々に増え、有効分げつを確保しつつあります(裏面参照)。

これから6月中旬にかけては、例年分げつが急激に増えます。有効分げつ確保の時期については、田植え日や標高の違い等により異なり、またほ場により茎数が同じでも見た目は異なります。そのため、ほ場を良く観察し、時期を見逃すことなく適期に中干しを始めましょう(少なくとも、条間がみえるうちに)。こうした水管理で過繁茂を防ぎ、一本一本充実した茎を確保します。

なお、中国地方の3か月予報(5月25日 広島地方气象台)では、「つや姫」の登熟期間にあたる8月の平均気温は、「平年並みか高い見込み」となっており、「猛暑」が予想されます。こうした天候に備えた過繁茂対策は、重要なポイントとなります。

1 当面(有効分げつ確保後～最高分げつ期)の栽培管理ポイント(水管理)

□適期中干し開始

- ・有効分げつ確保後(茎数:350本/m²≒20本/株)は、間断かん水から中干しへ移行します
- ・中干しは、窒素の過剰吸収を抑えて無効分げつの発生を防ぐ他、土壌中にある硫化水素等の有害物質を減らすとともに酸素を供給します。このことにより、根の活力低下を防ぎ、根を深く伸ばして後期の養分吸収を高めます
- ・さらに、田面を固めて地耐力を高め、収穫作業を容易にする等の効果もあります
- ・また、用水不足が懸念され中干しが難しい地域では、浅水や飽水管理(足跡に水が残る程度)を行います
- ・なお、幼穂形成期(6月下旬～7月上旬頃)以降は、再び間断かん水とします

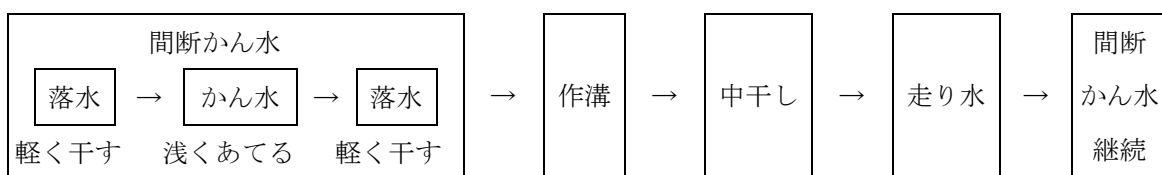


図 中干しの手順

2 「つや姫」普及実証ほの状況

本年度、各実証ほには、目標とする生育指標値を設定いただいておりますが、ほぼ全てのほ場で「最高茎数 450 本/m²以内」とされています。改めてご確認の上、上記の水管理等適切な管理に努めてください。



〔写真1〕 4/26 植：安来市飯生町
6/5（田植え後41日）、茎数：251 本/m²
→ 6/10 頃、有効分けつを確保する見込み



〔写真2〕 5/8 植：出雲市斐川町出西
6/7（田植え後30日）、茎数：211 本/m²
→ 6/15 頃、有効分けつを確保する見込み

☆穂肥を中心とした幼穂形成期以降の管理については、6月29日（金）、7月2日（月）に行う
マイスター研修会にてお伝えします

☆病害虫発生予察情報（平成30年6月4日 島根県）をお送りします

トピックス

全国における平成29年産うるち米の品種別作付動向を紹介いたします。

「つや姫」は、「きぬむすめ」とともに作付けが徐々に増え、トップ10入りが目前となっています（10位は1.6%）。

全国的には、上位3品種、また上位10及び20品種の全体に占める割合が減少しています。これは、各県のオリジナル品種や業務用の多収性品種が導入され、品種の多様化が進んだ結果とされています。

表 うるち米の品種別作付割合（全国）

平成29年産			参) 平成24年産	
順位	品種名	割合%	品種名	割合%
1	コシヒカリ	35.6	コシヒカリ	37.5
2	ひとめぼれ	9.4	ひとめぼれ	9.8
3	ヒノヒカリ	8.9	ヒノヒカリ	9.5
	:		:	
	上位10品種計	74.8	上位10品種計	77.6
	:		:	
12	きぬむすめ	1.3	:	
13	つや姫	1.1	:	
	:		つや姫	0.6
	:		きぬむすめ	0.5
	上位20品種計	84.1	上位20品種計	86.2

※公益社団法人米穀安定供給確保支援機構公表